

# Edius を使用した宮城教育大学の CM 作成

佐藤脩平<sup>1</sup>， 福井恵子<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 情報処理センターテックサポーター， <sup>2</sup> 情報処理センター  
（学校教育教員養成課程保健体育専攻）

筆者は情報処理センターメディアシステムの動画編集システム（Windows）を利用して宮城教育大学の CM を作成した。その過程をまとめることを通して、メディアシステムについて紹介する。現在はメディアシステムは一部の者しか利用していないが、今後より一層学生や教職員がメディアシステムを積極的に利用することで、クリエイティブな作品が生まれることを期待する。

キーワード：Windows, Edius, 動画編集，メディアシステム，アオバビジョン

## 1. 緒言

動画編集といえば Mac というイメージが強いが、筆者は使い慣れた Windows の Edius で動画編集している（図 1）。

この度、宮城教育大学の CM を仙台駅前 Loft のアオバビジョンで放映する計画が大学の広報委員会で企画され、テックサポーターを務めている筆者のもとに CM を作成してみないか、という話が舞い込んできた。今回は情報処理センターのメディアシステムにある動画編集システムの Edius を使って宮城教育大学の CM を作成した。

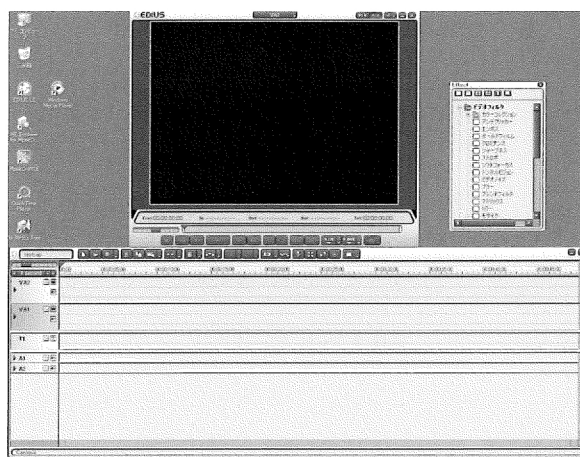


図 1 Edius 基本画面

## 2. Edius の機能の紹介

Edius は Canopus 社のビデオ編集ソフトである。現在、情報処理センターのメディアシステムにインストールされている。

### 1) 取り込み

Edius では作成された avi ファイルの他、DV 端子を通して VHS テープ、DV テープ、デジタルビデオカメラ等からの動画の取り込みが可能である。その他静止画 (jpeg や gif 等)、BGM として wav ファイルも取り込むことができる。

### 2) エフェクト

エフェクトウィンドウから好みのエフェクトを画像ヘドラッグ & ドロップすることでエフェクトがかけられる（図 1）。今回の CM では映像をセピア調に変換する「セピア」、映写機で放映しているような感じを出す「オールドムービー」、画像切り替え時に画面をめくっているようなエフェクトをかける「ページピール」等のエフェクトを使用した。なお、エフェクトは二重、三重にかけることが可能である。

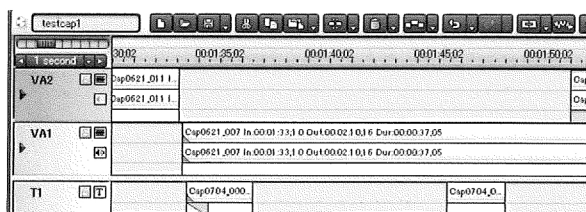


図 2 エフェクトの機能

### 3) 文字の挿入

映像に様々な大きさ、フォントの文字を挿入することが可能である。また、カラフルなテンプレートも用意されており、自分でカスタマイズすることができるになっている (図 3)。



図 3 文字の挿入

### 4) BGM の挿入

今回はオリジナルの楽曲を製作し、CMに挿入した。BGMはwav形式で挿入することができ、音量の調節、フェードイン・フェードアウトといったエフェクトをかけることも可能である。

### 5) 書き出し

avi形式、MPEG形式、wmv形式等、様々な形式での書き出しが可能であり、画面サイズや解像度も一般的なものの中から選ぶことができる。また、1コマずつjpeg形式やgif形式等の静止画に書き出すことも可能になっている (図 4)。

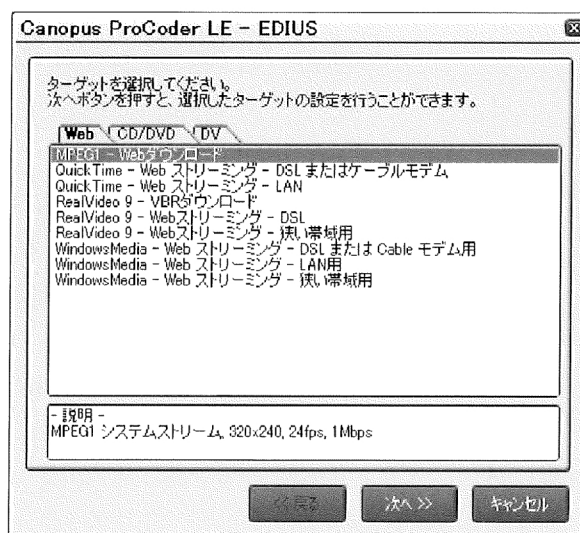


図 4 書き出し

## 3. 成果

広報委員会で審査された結果、事務局総務課の佐藤氏の御尽力もあり、筆者の製作したCMは仙台駅前Loftのアオバビジョンにて放映されることが決まった (図 5)。期間はH18/12/23 (土) からH19/1/25 (木)、8時から22時の毎時29分00秒と59分00秒から15秒間である。つまり1時間に2回、1日28回流れることになる。筆者はWindowsで本格的な動画製作をしたことは始めてであるが、「WindowsであってもCMとして放映するに十分な作品を作れる」ということが証明できたのではないかと思います。

今回筆者のCMが採用されたことにより、情報処理センターのメディアシステムの有用性、Windowsで動画を制作するという画期性が、学生、教職員、その他関係者に広く認知されることを期待する。さらに大学のメディア関連の企画・製作への、学生の登用について、大学関係者並びに学生の意識が高まってくれることを願う。



図5 青葉ビジョンでの放映の様子

#### 4. おわりに

メディアシステムを今後学生に開放していくためには、段階的に手順を踏む必要がある。

まず、メディアシステムの機器は専門的な機械が多いため、講習会等を開き、学生に使用方法を学んでもらう必要がある。ちなみに情報処理センターでは、これまでにプリンタ講習会やIT講習会等を開催している。

次に、メディアシステムの存在をもっと学生に周知しなければならない。現在情報処理センターのホームページではメディアシステムについて掲載しているが、もっと積極的なアナウンスが必要であろう。

また、Ediusと周辺機器自体にも改善すべき点がある。現在Ediusuに取り込めるメディアはVHS、DVテープであるが、DVテープを取り込んでいる際、何かの拍子にノイズが入るとそれ以降音声が消えてしまうということが起こる。また、DVDやVCDといったメディアも取り込みたい、という要望も今後寄せられてくるだろう。

現在メディアシステムは予約制の方法を採用している。予約は情報処理センターホームページの最下段にリンクが貼ってあり、そこからアクセスする(図6)。現在はホームページ上でアナウンスしているだけであるが、今後様々な方法でアナウンスしていくべきである。

メディアシステムは有効活用すれば学校のCM

まで作成できるシステムであり、非常に有用性が高いといえる。今後は、教職員や学生の創作活動を支援するシステムとして、さらなる充実が望まれるだろう。

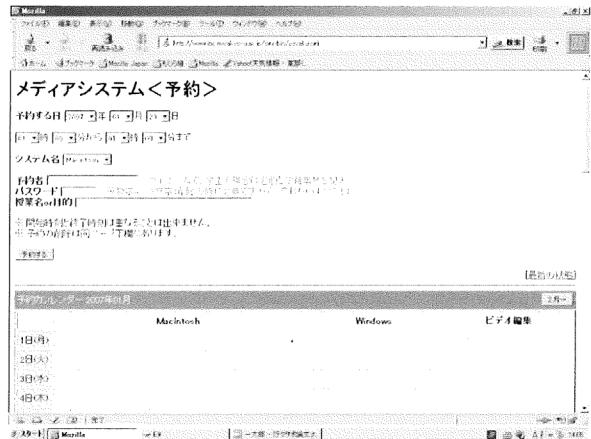


図6 メディアシステム予約画面

#### 参 考

宮城教育大学 CM

<http://prc.miyakyo-u.ac.jp/link/CM/>  
(宮城教育大学ホームページより)

情報処理センター

メディアシステムの利用方法

<http://students.miyakyo-u.ac.jp/~d5235/index/index.htm>  
(学内からのみアクセス可能)

メディアシステム予約

<http://www.ipc.miyakyo-u.ac.jp/cgi-bin/yoyaku.cgi>  
(学内からのみアクセス可能)